

NPO 法人サイバー絆研究所の2013（平成25）年度の活動への展望

見えにくい活動から分かりやすい活動へ（校正中）

1. はじめに

ICA（アイ・シー・エイ）と略称している、NPO 法人サイバー絆研究所（The Institute for Cyber Associates）は、約2年前の、2011年の4月から組織としての活動を始め、その年の11月には、NPO 法人としての認可を得て、会員の募集や年会費集めを開始しました。今年度（2012年度）は、活動資金不足もあり、外部への積極的な広報活動は、ほとんど行いませんでしたが、役員や正会員の方々、事務局スタッフとは、連絡を密にしながら、組織としての活動の基礎になる使命 Mission の確認、具体的な活動計画 Projects の立案、それを実行に移す仕事 Tasks への展開、さらに広報支援 Logistics（事務局）機能の整備など、組織としての足腰の強化に注力してきました。

ICA の運営の難しさの一つは、この組織が、ビジネスモデルに例えると”Platform の Platform 構築 “という事業モデルを前提にしていることです。また、事務局機能がほとんどネットを基盤とする”仮想事務局 Virtual Office “に依存していることも、運営上の障害になっています。後者の問題は、活動資金が十分でないことに関係していますが、オフィスがもてないことと活動資金不足とは、鶏が先か卵が先かの議論に似て、多くの組織の立ち上げに共通する難題です。この問題は、まだ解決されていません。

しかし私たちが掲げた使命達成のための最初の作業仮説である活動目標のいくつかは、大変具体的なイメージとして提示できるようになってきています。この文書は、その状況を簡潔に報告し、さらなる具体的な活動に向けて、関係者のご理解をうることを目的としています。

2. ICA の特徴

最初に述べましたように、ICA の事業の分かりにくさは、”Platform の Platform 構築 “という活動理念にあると思います。NPO 法人は沢山設立されておりますが、そのほとんどが、イメージが捉えやすい、かなり単一の活動目標を掲げているように思われます。これに対して ICA は、会員同士を結ぶコミュニティづくりの基盤となるネット環境の整備を基盤事業とし、その上に、学習（教育）、健康、農水産業や環境など、「個別の事業」を展開することをめざしています。しかもその主な担い手としては、いわゆる退職世代、あるいは年金受給世代を中核に考えています。さらに、具体的な活動においては、こうした年齢の高い世代が若手世代と連係して、新しい仕事や雇用や職の可能性を開拓していくことをめざしています。

ここで活動の基盤と考えている ICT としては、現在猛烈に進歩しているインターネットの第 2 革命を先導しているスマートフォン、タブレット PC、クラウドなどを、とくに重要視しています。また教育では、ネットを基礎にした開かれた高等教育 **Open University** を、健康に関しては、これも猛烈な勢いで進歩しているゲノム科学が先導する生物医学の成果の活用と、生活者の積極的な関与を前提としています。

このように、活動が多様な領域に跨っていること、活動に関わる専門知識も複合的で先端的な性格を有していること、さらにそもそもの事業モデルが次世代型であることなどが、「ICA がめざしていることは、わかりにくい」、という印象を与えてきたように思われます。しかし最近、ICA で掲げてきた事業や活動の個々の具体的事例が、続々とマスメディアなどで紹介されるようになってきました。そこに資金力のある企業が参入し、目的を絞ったビジネスとして展開しようとしている例が散見されるようになってきました。つまりうかうかしていると、ICA が掲げてきた事業構想や活動計画も、陽の目をみないまま、時代遅れになってしまう怖れがでてきました。一方で先行事例が増えていることは、ICA の事業を、わかりやすいものにしてきています。

そこで ICA としては、強みを活かして活動ができる、限定的な領域 **Niche** を定めて、行動のスピードを上げることが、必要だと考えるようになっております。また、これまでには、内部の関係者だけに限っていた話し合いを、外に広げ、新しい協力者や理解者をうるように、努力する時期になってきたと考えています。具体的には、研究講演会や啓蒙的なセミナーやシンポジウムの開催や、冊子づくりなどを検討しています。また、目標が明確になってきたことから、活動費を獲得することにも、積極的に取り組むべき段階に至ったと考えています。

3. 2013 年度に計画している事業と活動について

これまでは、目標、計画、活動、仕事という流れを、個別に策定することが難しい状況にありましたが、次年度は、一年間のおよその計画を立てて活動して行きたいと考えております。以下に、本年取り組む予定の活動を列挙します。

3. 1 事業の名称（略称）：ICA ミドルメディア（**Middle Media**）

事業内容：

ICA の（賛助会員を含む）有料会員へ、以下の基本サービスを提供する。

- （1）ネット活用の基本的なスキル **Net Literacy** の取得を支援する、
- （2）知的で楽しくかつ役に立つサイトと利用法を紹介する、
- （3）会員間の出会いとコミュニティづくりの機会を提供する、
- （4）ネット活用の基本的なスキル **Net Literacy** の習得を支援する、

本年の活動（仕事）：

- （１）現在の ICA の主サイトの改修、
- （２）「情報を探す」機能の大幅な改修、
- （３）一般会員募集への広報活動、最初に、CBI 学会の OB への呼び掛け、
- （４）次のオープンアカデミア **Open Academia** 事業と重複するが、ネット活用能力 **Net Literacy** の向上支援と、既存の情報知識源の活用法の紹介、
- （５）TED のような講演のビデオ配信の実験、

長期目標：最終的には、このサービスが、一種のミドルメディア **Middle Media** とし、会員のコミュニティづくりの役だつように、サービスのレベルを上げていく。

3. 2 事業の名称（略称）：ICA オープンアカデミア **Open Academia**

事業内容：

- （１）ネット上の既存の **Open University** 的な講座と教材の紹介と活用法の解説、
- （２）自然科学と情報計算技法の講座と教材の整備

本年の活動

- （１）自然科学と情報計算の基礎となる学問の現状調査、
 - （２）**CADU Platform** 事業と連係した、自然科学と情報計算技法の講座と教材の整備、
- ICA の活動の進展に連動させて、現在の我が国の教育に欠けている課題に関するオープンな講義と教材を、充実させていく。

3. 3 事業の名称（略称）：CADU Platform（キャドゥ・プラットフォーム）事業

事業内容：

- （１）医薬品の研究開発と適正使用への情報計算技法に関する我が国の研究者や研究資源の案内サイト“**CADU Platform**（キャドゥ・プラットフォーム）”を構築する、
- （２）上記に関係した計算創薬の入門講座と教材の整備を支援し、紹介する、
- （３）上記に関係した **Bioinformatics** の新領域を調査、探索する、
- （４）上記に関係した研究集会やコミュニティづくりに協力する、
- （５）上記の研究者のコミュニティを基盤とした、研究プロジェクトを提唱する、

本年の活動

- （１）基盤となる案内サイトの試作版を完成する、
- （２）「計算化学から計算創薬へ」という概念の入門講座と教材の作成を支援する、
- （３）他の学会などの協力をえて、研究集会や啓蒙的な講演会を、試験的に開催する、

長期目標：この活動によって、医薬品研究開発の新しいモデルを提示するとともに、このサイトを発展的に維持してもらえらる研究者のコミュニティを複数構築するような、触媒的な活動を継続する（そうしたコミュニティを包括する組織を、**The CADU Alliance** と呼ぶ）。

3. 4 医薬品研究開発のフロンティア

事業内容

(1) ESC/iPSC (胚性幹細胞や iPSC 細胞) 技術の創薬への応用に関する情報交換と人の交流支援

(2) 線虫やゼブラフィッシュのような簡便なモデル生物を創薬への応用に関する情報と人の交流支援

本年の活動

(1) ESC/iPSC のポータルサイトの構築と研究集会の開催、

(2) 簡便なモデル生物のポータルサイトの構築と研究集会の開催、

長期的な目標

計算機 in Silico と ESC/iPSC と簡便なモデル生物を組み合わせた創薬支援技法を支援する。

3. 5 事業の名称 (略称) : ハイクラウド HII Cloud 事業

事業内容

この事業は、生活者 Consumers が、健康イノベーションに積極的に関与する活動 Health Innovation Initiative (HII、ハイ) と、そうした活動の基盤としてネット第2革命を主役であるスマートフォン、タブレット PC、クラウドを活用するという、2つの意味をもたせています。具体的な事業内容としては、

(1) 一般の生活者の行動を先導する、Proactive Professional Consumers (PPC, 行動する専門家集団) の組織をつくる、

(2) 医療や医療機器、医薬品や健康食品などの研究者と、サービスの受け手である顧客 (生活者) が出会える機会として、バイオマーカーとヘルスメトリックス研究会を開催する。

(3) 個別の問題領域ごとに実践のグループを組織して、実験的に活動する、

(4) 上記に関係した、啓蒙的なシンポジウムやセミナーや研究集会を開催する。

本年の活動 :

(1) 個別医療や生活者参加型の医療など、生物医学革命と ICT とが相乗した新しい医療である p-Medicine の概念を啓蒙する連続セミナーを開催する、

(2) 実践のイメージを明確にするため、参加者が協力して報告書 (提案書) を作成する、

(3) 実践グループを組織するのに不可欠の医師や薬剤師などの協力者を探す、

(4) 先行するいくつかの実践グループを立ち上げる、

(5) 実践に関する集会やバイオマーカーとヘルスメトリックス研究会の集会を開催する、

(6) ヒトの健康状態 Trait は、先天的な遺伝的要因 Genome と、(食事、生活様式、環境要因などの) 環境 Environment の干渉で決定されるという考え (これを、 $G \times E = T$ の意味で GET と表現する) に立った米国の GET Conference を手本とした会議、日本 GET 会議の開催を準備する。

長期目標：

迫りつつある超高齢化社会を想定して、予防から医療、介護に至るさまざまな局面に、新しい実践グループを立ち上げ、社会システムとしての、新しいサービスを立ち上げることをめざしている。また、その過程で、新しいビジネスを立ち上げることや、雇用機会を創出することをめざしている。

3. 6 その他の活動

ICA としては、上記の他に、農業や水産業、環境分野の活動についても活動すべく、調査しているが、まだ行動計画を策定するまでに至っていない。

4. 活動資金と活動の優先順位

ICA は”Platform の Platform 構築 “をめざしていますが、それは、現在の状況で言えば、上記の 3 で挙げた Open Academia や、CADU Platform, あるいは HII Cloud 事業などから、さらに多くの事業が生まれてくる可能性があるという意味です。もちろんそうなるかどうかは、これからの事業展開次第ですが、概念としては、それぞれの事業から、さらに複数の事業が生まれてくる可能性を考えています。

この意味で、ICA は常に発展していく可能性を秘めており、新しい参加者が、自身の興味に合致した活動に参加したり、自ら新しい事業を開拓したりする可能性が大いにあります。

ただ、あまりこうした個別の事業や活動には興味がなく、多少受身で、ICA の提供するサービスにだけ関心のある会員がおられることも想定しています。こうした会員の方は、賛助会員となられることが多く、積極的に個別事業に参加し、新しい活動や事業を立ち上げていかれる方は、正会員として活躍していただきたいと考えています。

すでに述べていますように、ICA では会員同士を結ぶコミュニティづくりの基盤となるネット環境の整備と、それを活用したコミュニティづくりを基盤事業と考え、その上に、学習（教育）、健康という個別事業を展開しようと考えています。しかし、まず基盤事業を展開した後に、個別事業を展開するというやり方は、十分な準備資金がないと実行できません。そこで立ち上げの段階では、ある程度の活動資金があり、実際に参加者が募れる個別事業から優先的に取り組み、協力者や理解者が増えてきたら、共通性の高い基盤的なサービスを充実していくことを基本方針としています。

つまり活動の優先順位を CADU Platform 事業と医薬品研究開発のフロンティア → HII Cloud 事業 → Middle Media 事業または Open Academia 事業というように、移して行きたいと考えています。

5. 活動資金の性格

ここで注意しておきたいのは、本年の活動の重点課題になっている CADU Platform 事業が、CBI 学会の事業を引き継いだ活動なので、活動としては ICA のそれと一体であっても、事務処理上（経理処理上）は、ICA への報告の義務がないということです。すなわち、現在 CADU Platform 事業は、それ自身が一つの学術任意団体の活動になっています。したがって ICA の活動と整合性をもたせようとすれば、「定款 5 条（2）の非営利団体の運営を支援する事業」を、「無償で行なっている」ということになります。実際、CADU Platform 事業には、活動の裏づけとなる若干の資金が確保されています。しかしそれを消費するだけでは、活動はすぐ終わってしまいます。そこでこの事業に関わる新しい活動からは、何らかの収入があるようにして、持続可能なものに発展させられるように、工夫すべきと考えています。この意味では、ICA 本体の財源による活動と CADU Platform の活動とは、互いにもたれあうことなく、むしろ win-win の関係にできると考えています。

ただし、こうしたやり方は、（CBI 学会の事業を引き継いだという事情による）暫定的なもので、長期的には、一体的な関係に整理して行く予定です。

6. 会員の募集

以上の状況なので、当面の会員の募集は、主に、

- （1）CADU Platform 事業に関心のある研究者や専門家、
 - （2）HII Cloud 事業に関心のある研究者や専門家（Proactive Professional Consumers）、
- に的を絞っています。

しかし ICA の使命と事業理念は、一般の方々にも、受け入れられるだろうと考えています。ただ、そうした理解をうるためには、基本的なサービスをもっと充実させなければなりません。それができないうちは、ICA が発信する情報を受けるだけの登録者となっていていただくだけでもよいと考えています。

7. おわりに

”Platform の Platform 構築 “をめざす ICA 事業は、例えてみれば、大きな敷地の中に、さまざまな施設が建っている、遊園地のようなものです。全体の敷地の整備をするのが、基盤となるネット整備事業ですが、現在は、その整備を進めつつ、いくつかの施設づくりが始まっている、というような状況です。そうした施設が CADU Platform であり、ハイクラウド計画ですが、それら自身が、また発展性を内包しています。2013 年度は、こうして建設している最初の施設に、実際の顧客をお招きできるようにします。それと併行してオープンアカデミアのような新しい施設の建設とオープンもめざしています。

しかし、それぞれの施設が賑やかになるには、まず多くの方々に私たちの施設を知ってもらわねばなりません。そうしたパンフレットを作成することがやっと可能になってきました。来年度はそれを配布し、人々に集まっていただくことに移りたいと考えています。ご関心のある方々の積極的な関与を期待しています。

神沼二眞（サイバー絆研究所）

ICA の新しいサイトのトップ頁 (Home 頁) のイメージ

現在、ICA のホームページを再構築しています。この改修の要点は、全体の活動がトップページで概観できるように工夫していることです。下記がそれをあらわす、イメージ図です。実際のサイト (URL は、<http://join-ica.org/ica/> の予定) での表現は、これを縦にならべたようになっています。

この図では、この文書ではふれていない活動も、参考までに入れてあります。なお、この図の各枠には、サイトのトップページに対応する枠がありますが、それらの配列は同じではありません。

基盤となるネット環境

情報を探す ・ICAが推薦する情報源 ・求人求職	ネット時代の教養 若い世代との交流で ITC Literacy を高める	会員のコミュニティ ・楽講楽学 ・私の挑戦	世代間関係事業 ・退職世代の事業機会 ・若い世代との関係事業
---------------------------------------	--	------------------------------------	---

オープンアカデミア

ICAが推薦するネット上の講座・教材	複合領域の独習者支援 ・自然科学と情報計算技法 ・ 計算化学から計算創薬へ ・ 創薬インフォマティクス	自由大学 Free Univ. ・退職者のネット講義 ・研究成果の掲載	デジタル工房 ・3-D プリンター教室 ・開かれたネット工房
--------------------	---	---	---

医薬品 R&D の新しいモデル

医薬品 R&D の潮流 ・p-Medicine 時代における医薬品の研究開発	CADU Platform 構築 ・医薬品の研究開発と適正使用への計算機の利用案内	フロンティア ・ESC/iPSC ポータル ・モデル生物 ポータル	研究プロジェクト ・XenoRCC ・Aging & Diseases
--	---	--	--

健康イノベーション活動

ハイクラウド事業 ・p-Medicine への生活者の積極的関与	学術啓蒙集会 ・バイオマーカーとヘルスメトリックス研究会 ・日本 GET 会議	実践事例紹介 ・デジタル健康術 ・主要疾患の三次予防 ・心的ストレスへの対処	有用天然素材の探索 ・ハニー、ハーブ、ワイン
--	--	--	----------------------------------

環境問題と農水産業 (AGT: Aqua-Green Technology)

環境問題と農水産業 ・ミドルメディア機能	AGT フォーラム ・土壌改良 ・養蜂、養蚕、...	高次農業 ・農水産業の六次化 ・新しい流通ネット	住いの環境
--------------------------------	---	---------------------------------------	--------------